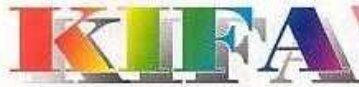


「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.10 (Mar 2003)



Contents

◇ 「KIFAへの期待」/町長 佐藤篤松	◇ 「創立10周年に思う」/会長 藤田美保	2
◇ 2002年度主要活動行事一覧		2
◇ 「KIFA 10周年記念行事を終えて」/副会長 谷中ひさ子		3
◇ 「マレーシアの結婚式」/中西淳子		4
◇ 「KIFA 英会話クラス」/中西久子		5
◇ 「ミャンマーの小学校を訪ねて」/佐藤博見、鈴木ツタエ		6
◇ ルイジアナからのホームステイホストファミリー感想記 石田優子、伊藤玲子、長坂久美子、山口令布子、山岸元行		7
◇ ルイジアナからのゲストの資料類、	◇ 国際料理教室 (ベトナム料理)	9
◇ 世界の国旗「タイ王国」、年間行事予定、会からのお知らせ等		10
◇ 企業会員と賛助会員一覧	◇ 編集後記	10

「KIFAに期待しています」

町長 佐藤篤松



皆さまにおかれましては、日頃からさまざまな交流事業を行っておられ、感謝を申し上げます。また、今年は創立10周年を迎えられますこと、心からお慶び申し上げます。

昨年からは、外国のかたに対する日本語教室の他に、私たち町民に対する英会話教室を始めていただきました。“ポディランゲージ”という言葉はありますが、やはりコミュニケーションをとるには、言葉を理解することが重要だと思います。そういった意味でも、今後外国語を理解する人が増えれば増えるほど国際交流は進み、また蟹江町が外国のかたにとって住みやすいまちとなるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今後とも国際交流活動に積極的に取り組みされることを切に期待するとともに、「かにえ国際交流友の会」のますますのご発展と会員の方々の皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

「創立10周年に思う」

会長 藤田美保



「かにえ国際交流友の会 (KIFA)」は1993年に棚橋さんを会長として発足して今年で10年になります。

これまで、KIFAはほぼ完全な任意団体として“国際交流”関連活動

を定常的にかつ幅広く行ってきました。このような国際交流団体は少なくとも県内ではかなり珍しいのではと、創立当時の役員として自負するところです。これも歴代の役員、会員皆様の努力のおかげと感謝いたします。

在住の外国人を取り巻く社会的、経済的その他の環境は当然、時と共に変わっていきます。それらの状況に合わせて、これからは町長はじめ町当局の支援と協力も得て、新しい国際交流の道を模索し、次の10年に向かって進みたいと考えます。

ただし、KIFAとしては従来の、“身近な所からの国際交流”という基本スタンスを忘れず、全会員共に楽しく活動を続けられるように努力したいと思います。

かにえ国際交流友の会 2002 年度実施の主要活動行事一覧

開催日	行事
2002年	
4月 14日 (日)	総会・パーティー
5月 12日 (日)	親善ボーリング大会
7月 20日 (土・祭日)	ルイジアナからのゲスト歓迎パーティー
8月 10日 (土)	町民夏祭り (出店)
11日 (日)	同上
10月 12日 (土)	町民秋祭り (出店)
20日 (日)	10周年記念行事 (ハアテ・シタ・ゴードンさん講演会)
12月 8日 (日)	KIFA クリスマスパティー
2003年	
2月 16日 (日)	国際料理教室 (ベトナム料理)

「KIFA十周年記念講演を終えて」

副会長 谷中 ひさ子



昨年10月20日、ベアテ・シロタ・ゴードンさんをお招きしてKIFA 設立十周年記念講演会「国境を超えたプレゼント」—日本国憲法草案作成の舞台裏—を開催できたことはとても幸運なことでした。江南市に本拠を置く「ベアテさんを語る会」のメンバーから「ベアテさんが秋に来日する」との情報を頂き、KIFA十周年記念講演に来ていただく準備を始めました。ベアテさんの日程に合わせながらの会場予約はハラハラでしたが、出来た時はとりあえずホッとしました。しかし、それからポスターを作って配ったり、町内の回覧板に入れさせていただいたり、口コミで宣伝したり・・・当日まで、絶えず頭の隅にこの講演会のことばかりが抜けなかったのを思い出します。

ベアテさんは前日まで各地で講演し、当講演はちょうど日程を半分過ぎられたところで、お疲れが出てきているのでは？と心配しましたがそれは全くの杞憂で、蟹江に到着以来元気に周りの人達と話しをし、逆に私達にまで気遣いをしてくださるほどでした。

講演は、ウィーンで生まれ、その後著名なピアニスト父レオ・シロタが山田耕筰に招かれ5歳のベアテさんと共に来日、15歳まで日本で過ごし、その後アメリカのミルズ・カレッジへ留学するが、日米開戦によって両親と連絡が取れなくなってしまった、と話が進められました。そして終戦、すぐに日本にいる両親を探すためベアテさんはGHQに職を得て、敗戦直後の日本に来ました。1945年12月24日に日本に到着したので、それが彼女の著書のタイトル「1945年のクリスマス」となったのです。

翌年の2月、民政局のホイットニー准将の命令で、彼女は憲法草案を作成する作業に加わることになりました。

22歳の若さで日本国憲法GHQ草案の人権小委員会に参画し、女性・福祉・教育などに関する条項の作成を担当したのです。結果的に、彼女の書いた草案は、かなりの部分がGHQによって削除され、さらに日本政府がそれを政府案として公表するにあたって、GHQとの交渉の席でもクレームを付けられました。しかし現憲法24条、25条、27条にその意思が残されました。日本国憲法第24条「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有する・・・両性の本質的平等・・・」第25条「社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進・・・」という男女平等、社会福祉の基本に当たる部分などがそうです。

その後、憲法草案会議の通訳の仕事で知り合ったジョセフ・ゴードン氏と結婚しニューヨークに住み、アジアとの文化交流の仕事を通して、日本やアジアとアメリカの掛け橋となって現在も活躍されています。

ベアテさんが「日本国憲法の草案を書いた女性」であることは、トップシークレットだったので、1993年来日しマスコミに取り上げられ大きな波紋を呼び、全国各地の女性団体から講演依頼を受け、何度も来日されています。

講演後、ベアテさんを囲んでの茶話会にも大勢の聴講者に参加していただきました。KIFAの「国際交流」と



いう立場からも本当にふさわしい講演者を創立十周年記念講演会にお招きできて、55年前と同様にベアテさんから素晴らしいプレゼントを頂いたと思います。

KIFA 日本語教室日本語しゃべろう会」の紹介

★ 火曜日クラス：毎週火曜日午前、蟹江児童館 ★ 土曜日クラス：毎週土曜日夜、中央公民館
連絡先(担当)：太田幸子、TEL/0567-67-4959 連絡先(担当)：八神里美、TEL/0567-95-0307

お知り合いの外国人の方達に上記教室があることを教えてあげてください(もちろん無料です!!)。

これらの教室では日本語講師のボランティアも募集しています。関心のある方、上記の役員までご連絡下さい。

「マレーシアの結婚式」

中西 淳子

前夜

夜、独身最後のパーティ（バachelorパーティ）で新郎のマンションに親族や友達が集まります。彼の家は2DKと大きくないので、マンションの中にあるプールサイドが会場となりました。食べ物はマレーシアの伝統的なものが多く、カレーやフライドチキン、魚の揚げ物などが中心です。ピュッフェスタイルなので好きなだけ器に盛っていただくことが出来ます。飲み物はビールかジュース。しかしジュースは真っ赤な色をしたかき氷のシロップのような味でありおいしいとは言えませんでした。でもマレーシア人はこれが大好きなんだそうです。会社の関係者を何人か紹介されましたが、片言の日本語を話せる人が多かったです。

帰る前に彼の部屋にお邪魔し、明日花嫁が着る衣装を見せてもらいました。白いウエディングドレスと淡いグリーン色のドレスがかかっていた。ダブルベットのある寝室にはポスター並みに引き伸ばされた二人の熱熱の写真が飾られ、その下には友達からいただいた贈り物が山のように積上げられていました。彼等の豪華なアルバムを見せてもらい、そのあとアルバムに使われた普通サイズ'の写真を何枚も広げ、好きなものを選んでといわれました。お祝いしてくれた人に配るものだそうです。どれもスターなみの美しい写真ばかりで選ぶのにかなり迷ってしまいました。マンションの玄関を出たところにはドアの上に赤い布が飾られており、この家でおめでたいことがあるとすぐにわかります。明日乗る車は、白と紫色のリボンで飾られたてありました。これに乗って彼は花嫁を迎えに行きます。

当日

朝6時半に彼のマンションに行き、ドアをたたくとまだ髪が乱れたバジャマ姿の彼が眠そうな顔で中に入れてくれました。お母さんがミロを用意してくれ、「食べてね」とカステラのようなふわふわのスポンジケーキを差し出してくれました。部屋の中には中国の神様の社が飾られ、ろうそくが灯され、果物などのお供え物が置かれていました。結婚当日なのでお供え物も豪華でした。ベランダにも同じようにテーブルが置かれお供え物が置いてありました。

彼の家はマンションの15階です。彼はシャワーを浴び白いタキシードに着替えばかびかの靴を履いていました。そのうち友達が集まり始め、予定の7時を過ぎたころに出発しました。彼の乗るリボンの車が先頭を走り、その後ろに友達の車が紫のリボンをアンテナに付けて4台続きます。

縁起担ぎなのでしょうが、9時までに彼女の家をたずねなければならぬそうです。ドアをたたきますがなが

なが開けてくれません。ドアがあいたかなと思うと中にいた彼女の友人が「これを食べなきゃ入れてあげない」とサンドイッチを差し出します。その次にはビール。そして玄関の扉がようやく聞き皆が中に入っていきます。



次に第二の難関。彼女の部屋の扉が堅く閉じられています。彼は彼女をいかに愛しているかをみんなの前で叫び、部屋の扉が開けられます。中にはウエディングドレス姿の彼女と彼女の友達たちがまっています。いろいろ彼に質問を浴びせませす。そして最終的に彼は彼女を連れ家を出ます。彼女の姿は白いウエディングドレスに白いパンプス。手には淡いピンクの本物のバラブーケ、赤いハンカチに赤い扇子。リボンの車に二人が乗りこ

み、その後を友達の車が続きます。着いたのは市役所。中に入り、受付を済ませ、順番を待ちます。順番が来ると、小部屋に入ります。付いてきた友達もみんな中に入り二人の様子を見守ります。係の人がいくつか二人に質問をし、二人は誓いの言葉を述べます。書類にサインをし、指輪を交換後めでたく手続きは終了します。サインは2週間市役所のロッカーで保管され、問題なく2週間が過ぎた後、正式に受理されるとのことでした。

外で記念撮影をし、中華料理の店に向かいます。二人が祝ってくれた友達にご馳走してくれました。その後は彼の家に戻り、今度は彼の家族との挨拶が始まります。彼の家族は年の順に二人が入れたお茶を飲み、代わりに真っ赤な御祝儀袋を彼等に手渡します。子供たちまでこの儀式が終わるとめでたくFIN。ここまで着てきた友達も帰って行きました。本当なら同じ日の夜に結婚パーティを催すそうですが、あいにく結婚シーズンでこの店も満員。パーティは次の日のお昼に催されることになりました。

結婚パーティ

始まり時刻は12時30分ジャストからと招待状には書かれていたけれど、実際に始まったのは1時すぎでした。大きな中華料理のレストランでした。入口までの階段にはバルーンがアーチ型に飾られ、入口には奇麗な花



が(造花)かざられています。入口の受付でで赤色の封筒に入れた祝儀袋を受付に渡し(中身は50RM、大休日本円で1500円)、アルバムにサインをして中に入りました。

席は自由で私は知り合いの人がいると

ころに座りました。見渡してみれば大きな丸テーブルが30個ほど。ひとつのテーブルに10人以上が座っています。合計300人招待されていると聞き、その規模の大きさに驚きました。多い場合は1000人を呼ぶというからもっと驚きです。音楽が流れ、二人が入口から入ってきます。日本と違うのは二人が雑壇には座らず、客と同じテーブルで食事をするということです。

正面のスクリーンには凝りに凝った二人の俳優並みの決まったポーズ写真が次々に映し出され、西部劇のような音楽が鳴り響き、炎の剣を持った二人が行進し、その後ろに料理を抱えたウエイター、ウエイトレスが続きます。彼等が各テーブルに一人一人つくると、炎の剣が前でクロスされ、料理がテーブルに置かれます。ドライアイスのスモーク演出のあるオードブルです。その後、順番に、鱈膾スープ鶏肉、野菜、魚、えびなどが登場し、最後に甘いスープとお饅頭で終わります。これは伝統的な結婚式の料理コースなのだそうです。日本の結婚式のよ

うな出席者の出し物はなにもありません。あるのは、彼等が壇上上がり、ケーキをカットするのと、シャンパンピラミッドにシャンパンをそそぎ、そのグラスを手に新郎新婦と二人の両親が前に立ち乾杯をすることです。乾杯の際には「やー」と皆がいつせいに声を上げますが、このやーというのが長く続けば続くほど幸せが訪れるといわれているらしく、いつまでも叫びつづけている人が多かったようです。

料理の合間に新郎新婦は各テーブルをまわり皆と乾杯します。だから二人ともべろべろ。このころには二人ともお色直しをしており、奥さんは淡いグリーンのドレスからワインレッドのドレスに変わっていたし、彼も白いタキシードから黒いタキシードに変わっていました。終わりはあっけなく、料理が全部で食べ終わった時点で皆が帰り始めます。出口では二人と彼の両親がお客を見送ります。これが私が体験した中国系マレーシア人の結婚式です。

KIFA 英会話クラス

中西 久子

私たちは、週2回、蟹江中央公民館で、英会話を習っています。私たちを指導して下さるのは、Jon山本先生です。ニューヨーク生まれのハワイ育ち、やさしくハンサムな青年です。毎月第2と第4の日曜日に開かれています。クラスは9時クラスと10時半クラスに分かれ、それぞれ10人前後です。20代の若い方から60代の人生経験豊かな方まで、年の差も感じることなく楽しく学んでいます。皆さん、共通の思いは、英語を使って外国の方達と交流したいことです。

このクラスの特徴は、英会話の習得ばかりではなく、コミュニケーションの取り方の訓練を受けているようにも感じられるクラスの進め方です。これは、講師であるジョン先生のおかげです。考えてみると、未知の人やあまり親しくない人との交流のきっかけをつくる会話の始め方を、繰り返し訓練されるのは初めてのことと思います。日本語ではなんとなく始めにくい会話も、英語だからできることもあるかもしれませんが、言葉だけでなく、目線、握手の時の間合いや手の合わせ方も大切であると教えられました。外国の方と直接話ができたら、お互いの国のこと、生活のこと、世界共通の環境問題のこ

と、子供の教育問題、老後の生き方など意見交換をしたいです。そのためには、自分の考えを伝えられ、相手の意見を理解できる英語の力を身につけたいのです。いつ



かのその日のために、今努力しています。

2005年の愛知万博には、多くの外国の方々が、愛知県に来られることと思います。その時私たちの仲間から、ボランティアとしてお手伝いが出来る人が出来るかもしれません。それは素晴らしいことです。今、始めようかと迷っている方、どうぞ、一緒に習いましょう。外国語は、一朝一夕には、身につけませんよ。

K I F A 英会話教室の紹介

★★ 講師：ジョン山本先生、第2、4日曜（月2回）、中央公民館 ★★

★クラスA：午前9:00～10:00、クラスB：午前10:30～12:00 ★

会費は月¥2,000程度（受講者数により多少変動）です。当クラスでは現在、受講者を募集中です。詳細、申し込みは（英会話教室担当役員）青木猛、TEL/0567-31-1216まで。

「ミャンマーの小学校を訪ねて」

佐藤 博見

私達が訪れたミャンマーは国民の大半が仏教徒で、男子は一生に一度は仏門に入るのが習わしだそうです。町では良くお坊さんの姿を見かけました。国の所々に金色に輝く寺院や、大小さまざまなバゴダ（仏塔）が立ってい



る美しい国です。特に夕日の美しさには感激しました。マングレーヒルの寺院から見た夕日は忘れられません。この国の人々は皆おだやかな表情をしていて何だか親しみさえおぼえました。髪は黒くスマートで、男女共腰に布を巻く民族衣装をつけてよく働いていました。

私達はいくつかの寺院へ行きました。寺院に入る時は、素足でなければなりません。そこでは大勢の人々が熱心に仏様をおがんでおりました。さすが仏教国です。町には日本語の書かれたバスが多く走っているのには驚きました。私達が乗ったバスも日本のもので、交通ルールが日本とは反対なので乗り降りは車道側からで一寸危ないです。バザールにも行きました。そこには所狭しと物が積まれ通路は狭く何だかゴチャゴチャしていて、またこの国独特な香辛料の臭いにフラフラになりながらの買い物でした。シルク工房、銀細工、漆器作業所、金箔打ち等々を見学しましたがみな手仕事でした。インレイ湖はボートで浮畑の間を通り抜け、湖上の民家を遠くに見ながら湖畔の陶器の窯場また蓮の糸の織物を作っている所等を見学しました。

さて、私達の一番の目的であるトウウェンニー小学校



今回持参して贈呈した文房具類

へ、ノートや鉛筆その他たくさんの学用品を持っていきました。そこはミャンマーの奥地の小さな学校で、民家も疎らで電気もついていない所でした。この学校へ片道二時間もかけて通ってくる子もいるそうです。校長先生はお寺のお坊さんです。今は長期のお休み中でしたが、私達のバスが着くと入り口には2、30人の子供が待っていて愛くるしい顔で私達を迎えてくれました。先ずはお寺の本堂に通され校長先生にご挨拶をし、色々とお話をお聞きして、今回のお金は図書館建設に使われることになり、こちらの望み通りの結果となってうれしい限りです。ノートや鉛筆も大変喜んでくれたようで、ここまで逢々持ってきた甲斐がありました。もう一つすばらしい贈り物は書道講師の石原先生にその場で揮毫していただいた「愛」と「友情」の書です。この学校との出会いが、今後もよい交流となって行くことを強く願います。



「ご協力ありがとうございました。」

会計 鈴木ツタエ

今回のミャンマー旅行はKIFAがプールしてきましたフリーマーケット、夏祭り等の収益金の一部10万円を、ちょうど100万チャット（ミャンマー通貨、不足分は同行引率者の磯部氏が負担）にしてシャン州トウウェンニー小学校に寄付してまいりました。ここは僧侶が校長先生（経営も同じ）で、現在先生が12名、生徒が110名の学校です。

この100万チャットのお金は今年度中に予定されている図書館建設に当てられます。来年1月下旬頃、磯部氏が再訪される際に写真を撮ってきて頂くことになっております。また、多くの方々から戴いたノート、鉛筆、消しゴム、ボールペン等も直接子供達に手渡すことができました。この小学校にこれからも継続して援助できればと思っております。

「ミャンマー訪問団について」

今回の訪問は2003年2月10日～19日に行われました。佐藤博見、鈴木ツタエ、服部小夜子の3人の会員の方が参加されました。

「キャロラインの思い出」

石田 優子

「ホームステイなの？ 賛成～！」
K I F Aからホストファミリーのお話をいただいた時、真っ先に声を挙げたのは4人の子ども達でした。前回のディナーに続いて2回目の受け入れです。

やがてルイジアナ州から可愛いお客さん、キャロラインがやってきました。彼女はとてもshyな女の子でしたが、子ども達とはすぐに打ち解けられたようです。最初あいさつ程度だった彼女の日本語は、子ども達と遊ぶことによってどんどんブラッシュアップされていきました。彼女が短い会話を覚えては子どもに話しかけると子ども達は大喜び。それを飽きずに繰り返すので、キャロラインにはとっても効果的な日本語の授業になったようでした。

子ども達と遊び終わると、今度は自分のノートによく使うフレーズをピシッ書き込んでいたキャロライン。物静かな頑張り屋さん。今度会う時にはきっと上手に話せるようになっていくことでしょう。

キャロラインの熱心さは、うちの子ども達にも大いなる影響を与えました。彼女が我が家に来てしばらくした朝、2歳の末っ子が「グッモーニン～」と起きてくるではありませんか。ホントに驚きました。結局末っ子はもの名前を聞く時、必ず「What's this?」と言うようになりました。きっとキャロラインが何度でも子ども達



に尋ねては日本語の単語を覚えていたから、末っ子にとっては大切な彼女の思い出の一部なのでしょう。

毎日いろんなところに出かけ、いろいろなモノを見て食べて……。キャロラインはなまものOK。おすしも大好きなのでクルクル寿司でオモイッキリお皿を積み上げたり、ショッピングが好きならば・・と暇さ

えあればお店めぐり。とにかく忙しい2週間でしたが、たくさんの楽しい思い出を共有することができました。

またK I F Aでホストファミリーを募集することがあったら、ぜひ立候補したいと思います。家の中もきれいになるし（こんな機会でもないと、冷蔵庫の中やお風呂の天井まで掃除しないので・・）なんといっても日本にいながら、外国気分が味わえるし……。

キャロライン、楽しい時間をありがとう。また会いたいね。



キャロラインからプレゼントされたテディベアには4人の子どもそれぞれの名前とアメリカ国旗がプリントしてありました。

「ユリさんからの贈り物」

伊藤 玲子

昨年の暮れのこと。「お届け物です！」と、いう声に、玄関の戸を開けてビックリ。ものすごく大きな箱が目の前に。送り主の名を見てまともビックリ。何と、アメリカ、ルイジアナ州のユリさんから。中身はとても美しいピンクの洋ランの鉢植え。ユリさんは、昨年夏に、



ルイジアナ州の高校生4名の引率者として来日した高校の先生だ。短期間ではあるが我が家にホームステイしていただいた。母親が日本人ということもあり、納豆、寿司、おつけ物大好き。おかげで料理が苦手な私は大助かり。日本人以上に日本的だった彼女……。思いがけない彼女からのクリスマスプレゼントが、忘れかけていた夏の思い出を、一挙に蘇らせてくれた。

「未来のドクター、エイプリル」

長坂 多美子

はるか遠いルイジアナから短い日々でしたが我が家で過ごしたエイプリルちゃん。

身体が大きなたってもおしゃれでチャーミングな子でした。私の誕生日にケーキを焼いてお肉の料理を作ってくれました。とっても優しい思いやりのある子でした。

帰国してもう半年。今ごろ大学の医学部で勉強に励んでいることでしょう。立派なドクターになれる様、遠い日本の空の下より祈っています。



今回、ルイジアナからは4人の高校生と付き添い1人、計5人が来日し、2002年7月17日から8月3日までKIFA会員宅でホームステイしました。

「初めてのホストファミリー」

山口 令布子

それは、我が家にアメリカからホームステイに来たステファニーの17日間の滞在最終日、JR 蟹江駅に見送りに行こうというときに起きました。「キヤー！」だったか、「わー！」だったか、ステファニーのただならぬ声に、私は、慌てて彼女の部屋へ行ってみるとなんと、スーツケースの南京錠のキーを 中に入れたまま締めてしまったというのです。その時、蟹江駅集合10分前だったのです。

ホストファミリー、それは、我が家にとって初めての経験でした。我が家には、長男と、娘が二人いますが、数年前から、「お兄ちゃんが大学に入って下宿をして部屋が空いたらホームステイ受け入れよう」と娘たちと話していたのです。そして、とうとう夢が現実になったのです。しかし、初めてのホストファミリー、どんな子がやってくるのか、言葉のこと、食べ物のこと、不安がいっぱいでした。でも、そんな心配も、服部美恵子さんや他のホストファミリーの方々にお話を聞くうちに、いつのまにかなくなっていました。

ステファニー・リュウ、彼女は今回、ルイジアナからやってきた高校生4人中最年少の16歳、中国系アメリカ人でした。容姿も東洋系ということもあってか、すぐ我が家に溶け込んだ感じでした。大学1年の娘とも、買い物に行ったり、テレビも一緒によく見ました。

日本の番組も興味を持ってよく見ていましたが、わからないことを質問されて、うまく英語で答えられなくて困ったこともしばしばでした。17日間のホームステイは、長いようですが、途中、彼女たちだけで東京、京都、広島などに出かけたり、キャンプに行ったりと結構ハ一

ドスケジュールで、あっという間に過ぎた気がします。

そして、いよいよ、別れの日、事件は起きたのでした。私はどうしたらいいかわからず、誰か南京錠を切る大きなベンチを持ってる人はいないかと、知り合いに電話をしまくったのですが、あいにく皆留守で途方に暮れていました。すると、ステファニーを送るために車を取りに行っていた主人が戻ってきて事件を知り、「5分あれば切れる」と、カナノコの刃を探し出して、ひたすら切ったのでした。そして、言った通り5分で切ると急いでJR 蟹江駅に行くと、他のみなさんはずでにそろっていて、ホストファミリーと別れを惜しんでいるところでした。我々は慌てて駅前で記念写



真を撮り、別れを惜しむまもなく、ホームへ送り出さなくてはいけません。その時、ステファニーが、不安そうな顔をして「オトウサンハ？」と言いました。そういえば、主人の姿が見えません。でも もうすぐ列車が着く時間です。私は、早く早くと、せかして送り出したのでした。すると、ホームに列車が入ると同時に主人が現れ、その手には買って来た小さな南京錠が握られていたのです。主人はホームまで駆けていき、間一髪、発車寸前にステファニーに渡すことができました。なんだか私が想像していた別れのシーンとは違って、何とも慌ただしいものでしたが、2度と忘れられない思い出となりました。切った南京錠は今も記念にサイドボードの上に置いてあります。

いろんな人に助けて頂きながら、思い出多い初めてのホストファミリーでした。またいつの日かホームステイの学生を迎えたいと思っています。

「ホームステイゲスト、もう一人の息子」

山岸 元行

私達家族にとってホストファミリーを引き受けることは、清水の舞台から飛び降りる程の大変な事でした。でも、皆さんの温かい助けのお陰でどうにか無事成し遂げる事が出来て今はホットしているところです。留学生・ブランドンの滞在中は、色々な行事に出席させてもらったりして、とても楽しい時間を過ごさせてもらいました。野球をした時、ホームランを打ってボールが川へ入ってしまったり、ステーキハウスでは、1ポンドのステーキをペロりとたいらげてしまったり、また私達のためにひき肉を一生懸命こねてハンバーガーを作ってくれたり、数え切れないくらいです。

私達は、彼をもう一人の息子だと思っています。今も、彼とはメールの交換をしています。この貴重な経験

をさせて下さった皆さんに心より感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



The Guests from Louisiana & their Hosts

Name of GUEST	Stephanie LIU	Brandon MELANCON	April BERNARD	Caroline THOMAS	Yuri P. WEYDLING
Sex	F	M	F	F	F
Year of Birth	1986	1983	1983	1985	1963
High School	Episcopal	Carenero	Carenero	Baton Rouge Magnet	Teacher of Latin at Baton Rouge Magnet
Grade	10th	12th	12th	11th	
Past Visit to Japan	2 weeks	None	None	None	6 months
Experience of Japanese Learning	5 years	2 years	2 years	1 year	
Pastime/Hobbies	Playing soccer, Piano, Violin	Working-out, Playing sports	Playing soccer	Travelling, Admiring arts	Reading, Travelling, Dancing
Remarks					Japanese-American
Name of HOST	R. Yamaguchi	M. Yamagishi	T. Nagasaka	M. Ebida	R. Ito

キャロラインからKIFAへのお礼の手紙 ⇒ Dear KIFA members,

Caroline Stephanie Brandon April



服部さん宅でのゲストとホストの人たちと関係者

Thank you for your great generosity at the KIFA party. It was an honor for you to teach me so much about the Japanese culture. With your help I now understand Japan so much more. Japan and its people will always have a special place in my heart, and I cannot wait to share all that I have learned with people back in America.

Sincerely,

Caroline Thomas



講師

国際料理教室 -ベトナム料理-

講師:ゴ・ティ・ビク・ハン (Ngo Thi Bich Hanh)
そして日本語教室のベトナム人生徒達

☆ 生春巻き、揚げ春巻き、フォー、ゴイウオン
☆ 蟹江中央公民館調理室、2003年2月16日



出来上がった料理 (一部)



← 教室風景

講師達を囲んで→



KIFA 主な行事予定 (2003年度)

行事日程	
日時	行事
2003年4月20日	総会、懇親パーティー
6月15日	親善ボウリング大会
8月9、10日	蟹江夏まつり参加
10月11、12日	蟹江秋まつり参加
10月末	前期会報発行
12月7日	クリスマス会
2004年2月8日	外国料理教室あるいは 国際交流関連講演会
3月末	後期会報発行

KIFA イベントボランティア募集

★上記の各行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募集します。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願ひします。

2003年度定例総会と 懇親パーティー

時：2003年4月20日(日)

総会：11:00～ パーティー：12:00～

所：蟹江中央公民館分館3階会議室

定例総会と、その後に創立10周年記念の懇親パーティーを開催します。パーティーでは、各趣向を楽しみながら歓談できるよう計画しております。会員の皆様はもちろん、国際交流に関心のある方もぜひご出席下さい。

世界の国旗シリーズ：「タイ王国」



1917年にラマ5世により制定された。赤は国民、白象に由来する白は仏教徒を、青はチャクリ王朝をそれぞれ表している。

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企業会員

(株) アイエス	蟹江住宅設備(株)	日光鋳工場(株)	山田建設(株)
----------	-----------	----------	---------

賛助会員

(株) 片桐銘木工業	蟹江広寿司	観音寺	共同建設(有)
高坂英次	たちばなや	月星歯科クリニック	東海興業(株)
仏光寺	フミン加工(株)	松岡豊泉閣	(株) 松はま
松屋(株)	丸信製粉(株)	(有) 宮長食品	もへの寿司
山田栄子	山本美代子		

☆☆ 編集後記 ☆☆

◎パソコンによる編集(DTP)も今回で3回目となり、編集作業もスムーズに進むようになりました。内容、レイアウト等についてのご意見をお寄せ下さい。

この会報への原稿等は常時受け付けています。外国人の方からの意見も積極的に取り上げたいと思います。原語のままでも結構ですので、周りの外国人の方に依頼して頂くようお願いいたします。(ふ)

かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場総務部企画課内
〒497-8601 蟹江町大字西之森字長三郎2
TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188